

第1回検討会議 委員からの意見と対応(案)

事項	委員からの意見	対応方針
全体に関する事項	プランを策定するにあたっては、人流と物流の違いを踏まえ、分けて整理しつつ、それぞれの機能を高める検討が必要。	プランを取りまとめるにあたって、検討事項を物流、人流、防災等に分類分けし、今後の取り組みの方向性を示す。
クルーズ振興に関する事項	高松港にクルーズ船が入港できない場合は坂出港で受け入れるなど、両港が連携してポートセールスを行うといった取り組みができれば良いのではないかと。	クルーズ船受け入れに向けて地元の学校や団体と連携したおもてなしイベントの開催等、高松港とも連携しつつクルーズ船の「お断りゼロ」を目指すこと等、「四国における瀬戸内海クルーズ振興検討会」の提言を実行することを今後の取組の方向性に示す。
	地元高校生が今後の坂出港の利用について考えるような機会をつくるなど、若い人が港湾振興に関心を持ち、イベント等に協力できるような体制を築いていきたい。	
	クルーズ船が寄港した際、坂出市内に乗客が立ち寄れるようにしたい。	クルーズ客が坂出市内に立ち寄る観光プランの提案について、今後の取り組みで方向性を示す。
	坂出港にクルーズ船を誘致するにあたり、瀬戸大橋を観光資源として見直すべき。	瀬戸大橋を生かすため、番の州地区において新たなクルーズターミナルの検討などを今後の取組の中で方向性に示す。
港の賑わいに関する事項	ものが集積する場所だけでなく、「人が集まる場所」、特に「楽しい場所」を戦略的に坂出港の中につくる必要がある。	坂出港周辺で開催されたイベントや交流拠点となりうる施設を整理するとともに、新たな交流空間の創出や「みなとオアシス」への登録を今後の取り組みの方向性に示す。
物流に関する事項	トラックドライバー不足の状況を踏まえ、海上輸送と陸上輸送を組み合わせるのが検討できると良いのではないかと。	近隣港との役割分担も踏まえ、モーダルシフトを促す新規航路の誘致を今後の取り組みの方向性に示す。
臨海部の有効活用	産業構造が変化する中、坂出港において未利用地が増えているのであれば、これらをそのまま残すのではなく別の使い方を考えていきたい。	クリーンなエネルギーの普及拡大が今後見込まれる中、LNGバンカリングやバイオマス発電、水素エネルギーなどの新規エネルギーの拠点化について検討することを今後の取り組みの方向性に示す。
	LNGバンカリング基地やバイオマス発電所はこれまでの考え方とは異なる。今後、坂出港を中継基地として売り込むことが考えられるのではないかと。	
	水素エネルギーの活用について、坂出港における新たな産業として考えることができないかと。	
維持管理に関する事項	坂出港の施設はかなり古く、クルーズ船やRORO船の誘致にあたってはそういった状況も踏まえ、利用岸壁の検討を行っていくべき。	坂出港の岸壁利用頻度は非常に高いため、利用調整を行いつつ、老朽化対策を行っていくことを今後の取り組みの方向性に示す。
防災に関する事項	資料には、防災の内容がなかったが、今後の南海トラフ地震等を踏まえ、防災拠点としての役割も考えていくべき。	プランを取りまとめるにあたって、防災に関する項目を追加。四国内のエネルギー供給拠点としての役割を踏まえた、地震・津波対策を今後の取り組みの方向性に示す。
港の連携・役割分担	今後、坂出港がどのような役割を果たしていけるのか、周辺港湾との連携・役割分担を踏まえて検討することが課題。 坂出港と高松港は近接しており、香川県の発展を考えると、両港が一体となった取り組みを市と県が連携して行うべき。	坂出港は、高松港と近接しており、かつ対岸の水島港、宇野港とも瀬戸大橋にて繋がれているといった地理条件を活かして、定期航路やクルーズ船の誘致、災害時における緊急支援物資輸送等について各港湾の関係者の連携を深め効果的に行っていくことを今後の取り組みの方向性に示す。